

# 景況レポート

(9月分・情報連絡員 80名)

## 製造業は衣・食・住を中心に売上が増加

【概況】9月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが11.4%（前月調査5.0%）、「悪化」が35.4%（同41.3%）で、業界全体のDI値は-24.0となり、前月調査と比較して12.3ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-12.9で前月調査(-28.1)に比べ15.2ポイント上回った。また、非製造業全体は-31.2で前月調査(-41.7)と比較して10.5ポイント上回った。

衣料品は秋冬物製品の生産が最盛期となり、取引先にもよるが、忙しい月となった。また、大震災により建築を延期していた住宅が着工されるなど、製材品の需要も伸びている。なお、円高が長引いていることから、繊維製品は取引先が海外生産に移行することや、製材品では輸入材との価格競争等、先行きに不安を残している。

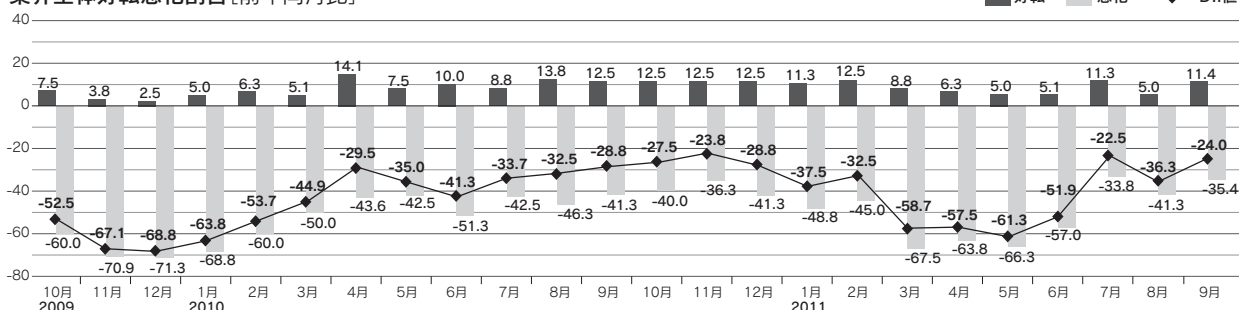
(回答数：79名 回答率：98.8%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業						
非製造業						

【凡例】  
 快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 曇り 10以上 10未満  
 雨 30超 30以下  
 雷雨 30超 30以下  
 【天気図の見方】  
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index（ティフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合〔前年同月比〕



### 業界の声

パン製造	9月に入り、気温が若干下がると同時に売上が上昇してきたが、結果は前年並に推移した。10月から業界3番手の大手が秋田県に正式に納入を開始するため、県内業者の売上がマイナスになることが懸念される。
清酒製造	8月の清酒出荷量は、前年同月比109.2%となった。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比113.3%、純米酒が117.1%、本醸造酒が96.7%、レギュラー酒が109.9%という状況である。
繊維製品	秋冬物の生産が終盤を迎え納期に追われる日が続いた。アパレルメーカーでは9月下旬の寒さから秋冬物が急に売れたようである。近年、気候の変化や休日に合わせた発注計画が、工場の生産計画を大きく左右している。今後、秋冬物が短納期で追加発注されるものと予想される。
一般製材	震災の影響で不足していた資材も出回り、ストップしていた工事が本格的に始まり大手プレカット工場やハウスメーカーはフルに稼働している模様。そのため、9月は注文が多く入ってきた。ただし、製品単価は厳しく、採算的には苦しい状況が続いている。
機械・金属	一部広域で受注できる所は好転している。ただし、地元はなく東京物件である。
再生資源卸	鉄の価格が下落している。さらに、9月に2回発生した台風により新車の入庫が予定どおりいかず、それに伴い、使用済み自動車の入庫が対前年比で30%ダウンした。
自動車販売	9月の新車販売台数は、登録自動車が2,427台(前年同月比115.4%)、軽自動車が1,823台(同92.5%)で、合計4,250台(同104.3%)であった。
石油販売	ガソリン1ℓ当たり144円で前月比3円引き上げ、軽油1ℓ当たり126円で2円引き下げ、配達灯油は18ℓで1,668円と前月比21円の引き下げとなった。ガソリンの減販に加え、値崩れ現象も見られ苦戦している。
商店街	【秋田市】一般消費の買い控えと、集客力のある店舗の不足から依然厳しい状況にある。8月まで他物販店と比べ好調であった居酒屋、酒類小売店も9月に入って急激に売上減となった。 【大館市】夏場以降、9月に入っても客足の減退は続き、各店売り上げ確保に苦慮している。ポイントカード事業のイベントや個店での販促も行い対応を取っているが、目に見えた効果は無く、各店の企画力、販促力が問われている。
トラック運送	収穫期を迎えた新米は天候の不順により大幅に遅れている。なお、低迷していた前年同月対比では数量・収入とも10%増加となり、品目別では、自動車部品15%、自主米5%(前々年度米の販売が好調)それぞれ増加となった。一方、高速は中型車以上の無料化廃止により収益が圧迫されている。